

日本医学雑誌 第59巻 第2号

目 次

第114回 日本医学学会 合同総会 演題目次
第41回 日本歯科医学史学会

プログラム

会長講演

- 19世紀初頭の日本における痘瘡対策 西巻 明彦 161

特別講演

I 外的表象としての史料

- 医史学における批判地図学の応用可能性について—— 鈴木晃志郎 164

- II 漢方医学の特質 花輪 壽彦 171

III 19世紀の武士社会と医学・歯科医学をめぐって

- 『武士の家計簿』からみた医薬消費—— 磯田 道史 175

- IV 江戸時代の病い 酒井 シヅ 178

一般演題

- 1 近代医学・薬学発祥史 辰野 美紀 181

- 2 明治期の日本における入浴に対する認識の変容 川端 美季 182

- 3 フランス領インドシナのベトナム北部における「産婆」の活用
..... 小田 なら 183

4 江戸時代の産科手術

- 回生術の展開と受容をめぐって—— 鈴木 則子 184

- 5 過去33年間(1980~2012)に報道機関紙(誌)が取り上げた
歯科医療事故について 加來 洋子, 山口 秀紀,
卯田 昭夫, 石橋 肇, 渋谷 敏 185

- 6 華岡直道の外科の師岩永氏と華岡青洲の外科の師岩永氏について
..... 松木 明知 186

- 7 乃木希典大将の総義歯と上顎石膏模型 大野 肅英,
羽坂 勇司, 齋藤 眞且, 高橋 滋樹, 安藤 嘉明 187

- 8 ジョージ・ワシントンと曲亭馬琴の義歯の比較 新藤 恵久 188

- 9 ピエール・フォシャール著『歯科外科医』第2版に見られる
歯肉疾患, その2 高山 直秀 189

- 10 富士川游と昭和前期の思潮——1930年代後半を中心に—— 土屋 久 190

- 11 大川周明と進行麻痺 金川 英雄 191

12 精神衛生法制定以前に廃院となった私立精神病院

- 鵜森と鷺の湯のケース・スタディ—— 橋本 明 192

- 13 ウィットントン病院の設立 柳澤 波香 193

14	岡山県邑久郡中島家資料にみる蘭学関係書について	酒井 シヅ, 中島 洋一	194
15	『胎産新書』諸本について——中島家所蔵本を中心に——	清水 信子	195
16	中島家にある「解体新書」とその書き込みからわかること	板野 俊文, 中島 洋一	196
17	公害・労働災害・医害の精神医学的側面 ——戦後精神科医療史覚え書き(その1)——	岡田 靖雄	197
18	本邦において正統の整形外科学を確立した 神中正一(1890-1953)(その一)	小林 晶	198
19	九州大学医学部・日本甲状腺学会共催 「橋本病百周年記念事業」報告	佐藤 裕	199
20	外科起痲図譜——世界で最初の全身麻酔の図譜は日本で著された! ——	土手健太郎, 長櫓 巧	200
21	眼科手術用メスの開発経過について.....	園田 真也	201
22	トマス・シデナム(1624-1689)の『処方集約 Processus integri』	坂井 建雄	202
23	レオナルド・ダ・ヴィンチの解剖手稿 KP162r の制作プロセス	永田 和弘	203
24	16世紀におけるガレノス解剖学の受容の多様性	澤井 直	204
25	Leiden 大学に所蔵されるレメリン解剖書2書と 『和蘭全軀内外分合図』について	渡部 幹夫	205
26	ポンペの講義録, 外科手術篇の原典は ディーフェンバッハの『外科手術学』である	相川 忠臣	206
27	『布列私解剖圖・完』(全二巻)と その原著である Fles の解剖学書について	島田 和幸	207
28	近代中国における pancreas の受容について.....	松本 秀土, 坂井 建雄	208
29	明治初期日本における西洋解剖学的人体イメージの普及過程 ——上田文齋の内臓図——	月澤美代子	209
30	営衛と両焦——三焦概念の変遷についての考察——.....	林 孝信	210
31	『診切枢要』の脈法	中川 俊之	211
32	「下竄」について	奥野 繁生	212
33	「口乾」と「口渴」について	渡部 栄輝	213
34	江戸時代における毒の言説と病:『養生訓』の事例をもとに	大道寺慶子	214
35	天応穴について.....	宮川 浩也	215
36	「三人図」について	寺川 華奈	216
37	杉山流鍼灸御用学問所の由来を記した『杉山先生御伝記』の 調査研究	大浦 宏勝, 市川 友理	217
38	『高等鍼灸学講義』の「鍼治学・灸治学」について	宮川 隆弘	218

39	歯科充填材料の発展	平田 幹男	219
40	日本大学歯学会機関誌の発行と変遷について ……… 工藤 逸郎, 三宅 正彦, 見崎 徹, 小室 歳信, 若松 佳子, 下山 哲夫, 会田 卓久, 松江 高光, 小田 泰之, 関根 光治, 和田 雅彦, 武田 秋生, 岩成 進吉		220
41	日本歯科口腔科学会創立総会議事録について ——学会名称に関する議事を中心に—— …… 山口 秀紀, 加來 洋子, 下坂 典立, 鈴木 正敏, 渋谷 鉦		221
42	北宋の医官教育と医書出版	真柳 誠	222
43	『幼幼新書』宋版巻38と明抄本巻38との比較	川端かおり	223
44	『御製本草品彙精要』編纂の序幕 ——『孝宗実録』弘治16年8月9日の条をめぐる—— …… 土屋 悠子		224
45	新出の『素女妙論』写本二種について	永塚 憲治	225
46	『医心方』巻三における引用書の配列についての考察	島山奈緒子	226
47	『万安方』所引の『可用方』について	郭 秀梅	227
48	『内経抜書』(内閣文庫所蔵)と 『内経病機撮要』(森嶋玄勝訓釈)の比較	吉川 澄美	228
49	『病名纂』について	竹内 尚	229
50	『体雅』の編纂と諸本の関連	浦山 きか	230
51	研医会図書館所蔵の林用之稿本『辛酉漫録』	安部 郁子	231
52	中国本草の中心地について	岩間眞知子	232
53	田代三喜の察証弁治における刻と牛八の意義	鈴木 達彦	233
54	『医学天正記』に記された人物たちの治験録とその時代背景	葉山美知子	234
55	脈学における曲直瀬道三の業績	吉岡 広記	235
56	秦宗巴(1550-1607)に関する新知見	アンドリュウ・ゴープル	236
57	曲直瀬玄朔の門人について	山田 恵美	237
58	古方派黎明期における張仲景関連書の扱い ……… 松岡 尚則, 別府 正志, 並木 隆雄, 山口 秀敏, 中田 英之, 頼 建守, 笛木 司, 安部 郁子, 岩井 祐泉, 牧角 和宏, 秋葉 哲生		238
59	防長の医家四熊家および浅山家の旧蔵書資料について ……… 中澤 淳, 亀田 一邦		239
60	下張り文書から垣間みた今泉元甫	鈴木 友和	240
61	小島寶素堂の終焉——小島尚綱と森嶋外『小嶋寶素』——	多田 伊織	241
62	高松凌雲訊“保嬰新書 舌帯之説の章”について ……… 福本 雅文, 池田 貴裕, 田中 晃伸		242
63	『回回薬方』の鍼灸門について	猪飼 祥夫	243
64	『古今医統大全』の鍼灸について(第3報)	田中利江子	244

65	『瘍医證治準繩』の鍼灸	上田 善信	245
66	福岡県立醫學齒學専門学校の短い歴史	小林 繁, 倉沢 良典, 上瀉口 武	246
67	『福岡医科大学醫院耳鼻咽喉科 手術候補簿』 明治40(1907)年-明治44(1911)年	丸山マサ美, 小宗 静男, 吉田 眞一	247
68	慶應義塾出身名流列傳に見られた済生学舎長谷川泰と 泰に纏わる幾らかの書簡	志村 俊郎, 都倉 武之, 西澤 直子, 唐沢 信安, 山本 鼎, 殿崎 正明	248
69	日本医科大学初代学長中原徳太郎について	殿崎 正明, 唐沢 信安, 山本 鼎, 幸野 健, 志村 俊郎	249
70	学生騒動で存亡のかかった日本医学専門学校における評議委員会の 果たした役割	山本 鼎, 唐沢 信安, 志村 俊郎, 幸野 健, 殿崎 正明	250
71	占領期の特設旧制高校, 東洋高等学校(理科乙類)(2)	永藤 欣久	251
72	川崙ミツエと東洋女子歯科医学専門学校	川崙 眞人	252
73	東京医科歯科大学歯学部解剖学教室が収蔵する ゾウの頭蓋骨について	秋本 和宏, 阿部 達彦	253
74	一井正典・生誕150周年——維新の若きサムライ——	松本 晋一, 井手 祐二	254
75	新島迪夫著「口腔組織学 口腔編」について	阿部 達彦, 秋本 和宏	255
76	王朝文学時代の歯科医療～その2	東 智	256
77	サメの歯と天狗	松山 知明	257
78	明治18年に東京府が実施した郡区医採用試験について	樋口 輝雄	258
79	公益法人改革の結果(1)——戦前からの法人の消長——	宮武 光吉	259
80	医療宣教師“John C. Berry”がめざした 医学校設立運動について	布施田哲也	260
81	男産婆と見做された産科医山本支齊	佐藤ゆかり	261
82	渋沢榮一の第三回パリ万博参加体験と 明治前期の福祉・医療事業への関与について	稲松 孝思, 松下 正明	262
83	パリにおける医学史関連史跡・博物館の現況	牧野 洋	263
84	歯科医院があった街角 ——近代都市景観の構成要素としての歯科医院の変遷を追って——	竹原 直道	264
85	本学の学生・教職員を対象とした「歯科医学歴史散歩」について	石橋 肇, 那須 郁夫, 渋谷 鉦	265
86	道教と中国伝統医学(第33回道教医学の歴史—2)	吉元 昭治	266
87	古代中国における名医伝の系譜	坂出 祥伸	267

88	いわゆる『儒醫』についての考察——Ⅱ 儒葬	田中 祐尾	268
89	近世後期の秋田藩による医療政策の展開	藤本 大士	269
90	濃州郡上城下『医師成願之事』	森永 正文	270
91	江戸後期における病気見舞と医療情報交換について ウィリアム・エヴァン・ヤング		271
92	『八丈島年代記』からみた疫病・疱瘡の歴史	對馬 秀子	272
93	幕末の佐賀藩が所有していたオランダ語の医学書	小澤 健志	273
94	華岡青洲に宛てた杉田玄白書簡 続報	長谷川 弥	274
95	服部宗賢(1752~1820)文書の研究	町 泉寿郎	275
96	明治・大正期の『家政学』出版書にみる終末期の看取り観 上坂 良子, 水田真由美, 窪島 領子		276
97	緒方洪庵『虎狼痢治準』(安政5年)にみるコレラの看護法	平尾真智子	277
98	アトピー性皮膚炎の「ア」と阿弥陀仏の「阿」は同じ意味である 藤岡 彰, 藤岡 和美		278
99	戦前・占領期を含む沖縄の平均寿命の年齢構造 ——水島生命表, 琉球政府生命表を用いて—— 逢見 憲一		279
100	ペスト菌(PX)撒布による「細菌戦」戦果の実相 ——「陸軍軍医学校防疫研究報告」掲載の高橋正彦論文から—— 蒔 昭三		280
101	占領期の日本脳炎対策に関するGHQ/SCAP/PHWの 活動についての考察 杉田 聡, 田中 誠二, 丸井 英二		281

誌上発表

102	冠動脈; Ibn Nafis から Jenner まで	藤倉 一郎	282
103	東京市における明治女医の臨床研修病院	三崎 裕子	283
104	出雲岩崎家所蔵の古医書	天野 陽介, 小曾戸 洋	284
105	『針別伝奥義之次第』について	岩田源太郎	285
106	歴代漢方処方集の比較検討(第1報) 大津 幸恵, 小曾戸 洋, 渡辺 浩二, 野澤 隆幸, 星野 卓之, 花輪 壽彦		286
107	西鶴作品にみる身体に関する語(一)	計良 吉則	287
108	金沢文庫旧蔵の医薬書	小曾戸 洋, 花輪 壽彦	288
109	『類証弁異全九集』の鍼灸条文	木場由衣登	289
110	橋田邦彦の音楽論	佐々木(勝井) 恵子	290
111	医業類似行為者について	清野 充典	291
112	『骨度正穴考図』について	鶴田 泰平	292
113	足利学校遺蹟図書館所蔵の医薬書 野澤 隆幸, 小曾戸 洋, 花輪 壽彦		293
114	『類説』に見える医経の引用について	橋本 典子	294

115	慶長古活字版『重編医経小学』の鍼灸歌賦について……………	橋本 史代	295
116	『医心方』における当帰の応用……………	星野 卓之, 小曾戸 洋, 花輪 壽彦	296
117	『鍼法秘伝鈔』について……………	山崎 陽子	297
118	服部甫庵編『医官要編』と浅田宗伯……………	渡辺 浩二	298
119	華佗の治療にみる夾脊穴の運用……………	周防 一平, 小曾戸 洋, 天野 陽介	299
医史学関係文献目録 (平成 23 年, 2011 年)……………			順天堂大学医史学研究室編 306
投稿規定……………			359
編集後記……………			361

《本号の表紙絵》

象牙質象牙細管内神経線維

(×1200 ビルシヨウスキー・ナガハマ染色)

象牙質内に神経線維が存在するかどうかの問題は、19世紀にさかのぼる古い問題である。これは、硬組織の固定法が難しいこと、脱灰あるいは研磨時に組織の実体に変性してしまうことがあげられる。初期に象牙質の神経線維を報告したものに、Murgens (1892), Römer (1899) らがいるが、十分な証明にいたっていない。象牙質の知覚について、Walkhoff (1923) は、象牙線維そのものが物理化学的变化によりその刺激が象牙芽細胞に伝わり、神経線維に伝わるという概念を示している。象牙質内の神経線維を証明したのは、日本歯科大学教授豊田実 (1929, 1934) で、象牙細管の中で、象牙線維にまつわりながら上昇、自由端や神経終末で終わると述べ、さらに側枝をだして神経網を作ることを主張した。この研究は、ベルリン大学の Dieck のもとで始められ、電気滲透洗滌器を使い脱灰象牙質内の電解性沈着物を除き、ビルシヨウスキーの鍍銀法を行ったものである。しかし、この方法でも再現性が難しいことが欠点として挙げられているが、本表紙のスライドは長浜晋 (1981) により、電気滲透洗滌器を使わず、鍍銀法で過染し、漂白により作成したスライドである。

(西巻 明彦)